

平成27年度学校評価まとめ

〈教員評価〉

1 教育活動

(1) 学習指導 (平均2.9)

昨年と比べて大きな変化はないが、資格取得においては0.3ポイント減となり、個々のレベルに応じた検定の選択や、授業、講習などが必要であると感じる。家庭学習においては、特に長期休業中の課題を出すことで家庭学習の習慣化や休み明けの課題テストに向けた取組も継続していく一方、平素における本来的な家庭学習の必要性も啓蒙していくことが肝要である。

(2) 生徒指導・健康安全 (平均3.0)

生徒の主体的な活動という意味では、まだまだ教員主導で生徒が動かされている場面も多い。生徒に自発的に行動させるためには行事を計画的に進める必要がある。

生徒指導事故の未然防止や事故の対応（特に初動）についての見直しが必要。情報共有や連絡、相談体制が非常に脆弱であるため、分掌、学年会の定期的な開催と、相互の情報共有を確実にしていく環境づくりが必要である。

(3) 進路指導 (平均3.0)

ここ数年の進路決定率がほぼ100%であることは、学校の信頼や安心感にもつながると思われる。生徒募集の大きな要素の一つにもなっていると思われる。

一方で、さらに上を目指させる指導や早い段階での進路意識向上に向けた指導や面接指導、書類の書き方、企業・学校開拓なども進路指導部中心に学校全体で計画的に実施していくことが必要である。

2 学校運営

(1) 信頼される学校づくり (平均3.4)

3つの項目において平均0.3ポイントの上昇と評価ポイントが高い。特に今年度は出願者数72名となり、学校説明会や、学校訪問、その他の取組により、本校の教育活動の在り方についての理解が深まったことの成果が現れていると考えられる。文武両道、学力向上に力を入れたことで、広く地域にも信頼を得たのではないかと感じられる。さらに本校の魅力を向上させるために、個々の資質向上と、情報発信や学校運営協議会の活動を活発に行い、渡島西部の基幹校となり選ばれる高校を目指していきたい。

(2) 組織運営 (平均2.9)

唯一、3.0ポイントを下回った項目である。特に情報共有や報告・連絡・相談において、反省すべき点が多い。分掌、学年の機能を充実させるために、部会や学年会の適時開催や、会の内容改善（各分掌担当、学年担当からの発信や、行事の計画の内容改善や把握など）が急務であると感じる。

(3) 教職員の資質向上 (平均3.2)

学力向上には個々の専門性を高め、授業力を向上させることが絶対条件であるため、町立の強みである様々な校外研修参加で得た成果を各教科、分掌でフィードバックできる環境づくりをしていくことが重要である。

## 〈生徒 評価〉

### 1 全体

過去4年間と比較してみても大きな変化はみられないが、多くの項目において2学年と1・3学年の差が大きい。特に学校、教員への信頼度、将来への安心感など、重大な項目における学舎満足度の2学年のポイントの低さが目立つが、主任、担任交代などによる改善途中であり、来年度以降に期待したい。

学力向上の取組については昨年度より大きく方向性が示され、移行期にある今は評価もいろいろであるが、将来を見据えて、校訓にもある「豊かな感性、高い知性」を目標に人間形成を目指す姿勢を崩すことなく指導していきたい。

### 2 ポイント上昇項目

(1) HRへの満足 (昨年から0.1↑)

(2) 教員への相談 (0.2↑)

教育相談週間の充実や普段からの生徒相談を親身に実施し生徒からの信頼度は上がっている。

(3) 学力向上 (0.4↑)

今年度より新しい項目として記載したため、昨年度までの読書についての項目との比較はできないが、学力向上については生徒も意識しているように感じる。なぜ学力向上なのかの理由付けを明確にし、行事や部活動とのバランスをとりながらの向上を目指したい。

(4) 進路相談 (0.1↑)

全校平均3.7と非常に高い評価となっている。進路決定率や面接指導の充実などによるものと思われる。

(5) 人間関係や安心感 (0.1↑)

(6) いじめのない学校 (0.1↑)

(5)・(6) から安心して学校に通えていると言える。

### 3 ポイント下降項目

(1) 目標を持った学校生活 (0.1↓)

学校に通う意味や、本校における実行力のある実態に応じたキャリア教育の取組の推進を図り将来の目標設定を早い段階で明確化させていくことが必要であると考え。

(2) 部活動や学校行事の充実 (0.1↓)

行事の精選や学力向上への取組を図り、真の学力の定着やバランスの良い人間形成を目指し、学力向上と同時に行事・部活動の充実を定着させていくことが必要である。

(3) 学校や教員の生徒理解 (0.2↓)

1年(3.5)3年(3.6)で上昇しているが、2年(2.5)と昨年の(3.2)から大きく下降(0.7↓)している。全教員での信頼回復や生徒理解が急務。年度途中での外付けの学年主任への変更やA組担任の交代などで生徒が不安感をもっていることが評価に現れていると思われるが、新体制となり学年やクラスとしての機能が充実してきていることから、今後の上昇を期待したい。

〈保護者〉

・全体的に昨年度と変わらず、平均以上の評価を得ているが、変わらないことがよい評価として認識せず、今後の学校経営において、教育活動の透明化（見える化）、地域に魅力をアピールできる学校づくり、安心と期待がもてる学校づくりを目指して改善していくことが重要である。学年によって評価が大きく異なることは大きな問題としてとらえ、改善していく必要がある。平等に教育や指導を受ける権利が生徒にあることを認識したい。

〈学校運営協議委員〉（6名）

・学校の教育活動全体の評価は3.8（昨年より0.3ポイント上昇）と大きく評価を得ている。その中で、未来を見据えて希望を持つことに関しては、2.7ポイントと、特に知内高校に通う意味や進路に対する意識の指導については、今後の課題だと考える。そこに、渡島西部の中学生が知内高校に魅力を感じ、高校進学を選択において本校を志望する生徒を増やしていくことにもつながるのではないかと考える。また【項目7】校長の学校課題解決の努力について（3.8）、【項目9】生徒の学力向上を図る取組（3.7）の評価については、学力向上を柱に学校の方向性を明示し、文武両道にぶれることなく努めた結果だと思われる。今後、将来を見据えて、この方向性を崩すことなくバランスのとれた人間教育をしていくことが、地域の期待に応えることにつながると考える。